



消費意欲高める製品を

かなおか さな
金岡 沙奈さん(若狭東高3年)

昨年10月の県内の有効求人倍率が1・98倍と高く、全国で東京に次いで2番目だった。

私はこの記事を読んで「現代社会」の授業で学んだことを思い出した。一般に、景気が悪いと物を買いたいと思う人が減少し、物が売れないと供給も減少する。そうなるとう仕事が減り、失業者が出たり、求職者に対して求人数が不足したりする。このことを踏まえて考えると、福井でも全国的にも、実感は伴っていないが、景気は上向いているのではないかと思う。

記事には「高度成長期に迫る」と記載されているが、状況は全然違つよに感じる。高度成長期は豊かな生活を求める人々が旺盛な消費意欲を示し、それが有効需要を高めた。今は生活が豊かになり、生活必需品が行き渡っている。そのため、新しく生活に必要なものを生み出し、消費意欲を高める必要がある。

私は卒業したら製造企業の事務に就職するので、消費意欲を高める魅力的な製品を開発するお手伝いをしていきたいと思う。

10月県内求人1・98倍 依然高水準、全国2位

有効求人倍率は、10月1日現在、県内は1・98倍と、前年同月比で0・01ポイント上昇した。全国では東京(2・00倍)に次いで2番目に高水準を維持している。県内では、製造業(1・95倍)とサービス業(1・99倍)の両方で高水準を維持している。特にサービス業は、前年同月比で0・02ポイント上昇した。一方、製造業は、前年同月比で0・01ポイント上昇した。これは、製造業の生産回復が求人を押し上げたことによるものと見られる。

全国1・5倍 高度成長期に迫る

高度成長期に迫る。高度成長期は、豊かな生活を求める人々が旺盛な消費意欲を示し、それが有効需要を高めた。今は生活が豊かになり、生活必需品が行き渡っている。そのため、新しく生活に必要なものを生み出し、消費意欲を高める必要がある。